

4月8日（金）閣議後大臣記者会見冒頭発言

今後の日本の市場・取引所を巡る諸問題に係る検討について述べさせていただきます。

日本の証券市場・取引所では、1990年代末以降、投資商品の多様化や取引システムの高度化などに向けた取組みが進められてきました。

このような中、例えば近年、アルゴリズムを用いた高速な取引が大幅に増加し、

- ・ 昨今の相場急変動の要因の一つとなっているのではないか、
- ・ 中長期的な企業の収益性に着眼した株価形成が阻害されるのではないか、

といった指摘もなされているところです。

こうした点を踏まえ、取引の高速化が市場の公正性・透明性・安定性などに及ぼす影響について、検討していくことが重要と考えます。

また、足元の金融環境を踏まえ、国民の安定的な資産形成に資するよう、グローバルな分散投資や資産運用の高度化を進めていくことが益々重要になってきています。その際、商品開発、販売、運用、資産管理それぞれに携わる全ての金融機関等において、フィデューシャリー・デューティー、すなわち顧客本位の業務運営の観点から、どのような取組みが求められるかについて、検討することも重要と考えます。

更に、ブロックチェーン技術など最近のFinTechの進展への対応は、証券取引などの分野においても重要な課題となっています。日本の競争力強化等の観点から、どのような対応が必要か、という点についても検討すべきと考えます。

今申し上げた点も含め、日本の市場・取引所を巡る諸問題について、幅広い観点からご議論いただくことが適当と判断し、4月中の出来るだけ早期に金融審議会総会を開催して、新たな諮問を行うこととしたいと考えています。